

写真

歴史×情熱×技術

# フォトクラブ メビウス

活動日時：月1回 第3日曜日 午前9時30分～午後0時30分  
入会金：3,000円 月会費：1,000円

## 写真への想い

柱の陰から顔をのぞかせるバツタ、2000kmの旅の途中羽を休ませるアサギマダラ、アザミとの対比が目を引くテントウムシ…昨年11月から『つくし』の表紙を飾ってきたこれらの写真は、全てフォトクラブメビウスさんによる作品です。



作品への投票の様子

メビウスさんは平成元年から活動を開始され、舎人センターでも最も長く活動されているサークルの内のひとつです。月に1回の舎人センターでの活動の他、1泊または日帰りでの撮影会や、作品をお互いに講評しあう会を定期的で開催しています。舎人センターの3階に飾られているたくさんの写真も、そうした撮影会で撮られた作品や、会員さんが個別に撮られたものです。

取材当日は課題作品の提出日に当たり、会員さんの力作がずらりと並べられ、それぞれの作品への投票が行われていました。各々自由に作品を見て回り、互いにコメントをしあう姿は、楽しみつつも真剣そのものです。鋭いコメントが飛び交う中でしたが、取材者の「写真の魅力は？」という突然の質問に対しても、快く答えてくださいました。

曰く、「もう一度見たい景色や光景というものは、その瞬間しか現れない。その一瞬を捉えるこ

と」が、写真が持つ魅力なのだそうです。会員さんの多くは定年後の趣味というスタンスで写真が続けられているようですが、趣味といえども写真への情熱と技術は本物です。これらを支えているものは、一体何なのでしょう？

## ベテランぞろいの頼もしさ

フォトクラブメビウスの講師を務めていらっしゃるのは、光と影をモチーフに活躍され、本も出版されたプロカメラマンの千葉允先生です。会員同士のやり取りだけでなく、プロの講師から個人的な指導を気軽に受けられることも、メビウスさんの活動の大きな魅力です。

さらに、代表である軽部さんの写真歴はなんと60年！他の会員さんも30～50年以上写真が続けられていて、一番短い人でも5～6年は経っているそうです。「会員の3分の2ぐらいの人が30年以上はやっている」というベテランぞろいのメビウスさんだからこそ、写真への姿勢も真剣なものになります。そのため、作品に対しては時に厳しい批評が交わされることもあるそうです。

普段の雰囲気はとても和やかで、作品を前に談笑することもしばしば。副会長の千葉さんは「生涯学習を楽しんでもらいたい、という意識でやっているの、若い方も高齢の方も歓迎します。最近は、写真を始めたくて一眼レフを買ったけど使いこなせていない、という話をよく聞くので、そういう人にもぜひ参加して欲しい。ぼっちりアフターケアをしますよ」とのことでした。

真面目に楽しく頼もしく、活動を続けられているフォトクラブメビウスに、皆さんも参加してませんか？きっと新しい世界が待っています！